

○令和7年度 第1回北九州市発達障害者支援地域協議会 議事録

- 1 会議名 令和7年度 第1回北九州市発達障害者支援地域協議会
- 2 開催日時 令和7年8月25日(月)18:57～20:25
- 3 開催場所 北九州市役所本庁舎3階 大集会室
- 4 出席者
 - (1)構成員(敬称略)
中村 貴志、長森 健、渡辺 恭子、尾首 雅亮、今本 繁、金光 律子、大坪 巧弥、
千々和 知子、嶋村 美由紀、伊野 憲治、藤井 敬太郎、古市 隆司(計12人)
 - (2)オブザーバー
北九州市発達障害者支援センター「つばさ」 黒木 八恵子
 - (3)事務局
 - 【保健福祉局】
障害福祉部長 坂元 光男
障害福祉部 精神保健・地域移行推進課長(発達障害担当課長) 福田 ルミ
障害福祉部 精神保健・地域移行推進課 事業調整係長 猪上 徳子
障害福祉部 精神保健・地域移行推進課 主査 福田 稔
 - 【子ども家庭局】
子ども総合センター次長(発達障害担当課長) 赤塚 直人
 - 【教育委員会】
事務局学校教育部 特別支援教育課長(発達障害担当課長) 森永 勇芽
- 5 会議次第
 - 【1 開会】
 - 【2 部長あいさつ】
 - 【3 議事】
 - (1)報告事項
 - ①発達障害児者支援における効果的な情報集約や情報発信の具体化
・発達障害児者のための支援機関ガイドの公開について
 - ②発達障害児者支援に関する支援者の交流機会の確保
・障害児支援多職種交流会について
 - ③強度行動障害支援
・令和7年度中核的人材養成研修について
・強度行動障害がある人への支援者養成研修会について

・アウトリーチ支援の試行結果について

【3 閉会】

6 議事録

(事務局)

- ・本日は4名の傍聴人にお越しいただいています。
- ・北九州市教育委員会特別支援教育相談センターの北野構成員の異動に伴い、千々和構成員が新たに就任されました。また、発達障害者支援センターの黒木氏にオブザーバーとしてお越しいただいています。
- ・倉光構成員が所用のため欠席です。また、嶋村構成員は遅れて参加します。

【報告事項】

(1)発達障害児者支援における効果的な情報集約や情報発信の具体化

発達障害児者のための支援機関ガイドの公開について

(事務局)

- ・9 ページ「別紙1」をご覧ください。支援機関ガイドは発達障害者等の相談支援を行っている支援者の方から、「どこの機関に繋いだらよいか分からない」「紹介先の情報が少ない」という声を踏まえて、発達障害者支援センター「つばさ」が作成したもので、令和7年の7月28日に公開しました。
- ・周知先は4の通りで11ページにPR用のチラシがあります。また、3年に1回、全機関に情報の更新依頼を実施しますが、変更・新設等があれば都度対応する予定です。

(構成員)

- ・支援機関ガイドは、関係機関の皆さまのご協力のもと作成を進めてきました。
- ・前回の協議会でライフステージに応じた支援機関のページに、かかりつけ医を入れた方がよいというご意見をいただいたので反映させました。
- ・「活用方法について」のページでは閲覧方法や「つばさ」の連絡先、関係機関へのお願いなどを記載しています。
- ・11ページのチラシでは、使い方を吹き出しで紹介したり、構成員からご意見いただいたように、QRコードを掲載することでスマートフォンから簡単にアクセスできるようにしました。
- ・各機関のページでは、機関名をクリックしたら、それぞれのページへハイパーリンクで移動できるようにしました。市から支援者・相談者がもっと機関を探しやすくないか？と意見をもらったので、トップページに「支援機関ガイドを作成しました」というインフォメーションを掲載するとともに、全ての機関をまとめたPDFだけではなく、必要な機関のページをすぐに見られるように各機関のPDFも個別に掲載するように変更しました。なお、下のボタンをクリックすれば、冊子とし

て全てのページを印刷することも可能です。

・支援機関ガイドを見て相談しましたという声は、まだ聞きませんが、構成員の皆さまもご覧いただき、関係者の方にご紹介ください。

(構成員)

・今、「つばさ」のホームページ見ていますが、支援機関ガイドのページにはどうやって行くのですか？

事務局がスクリーンを使って検索手順を説明。1各区役所のページにある「妊娠・出産・育児に関する相談事業」をクリックすると支援機関のホームページに移動することを紹介

(構成員)

・関係のページといいながらクリックすると「妊娠・出産・育児に関する相談事業」という一般のページに移動する。発達障害から外れてしまう。もっとチェックして関係ない情報は外してもらわないと、あまり意味がない。

(構成員)

・直接、発達障害のページに移動できるように可能な限り設定したのですが、ホームページによっては、更新される場合にアドレスが変わってしまうため大枠のページにリンクを貼っているものもあります。

(構成員)

・なぜ、先ほどの質問をしたかという、Yahoo!で検索しても支援機関ガイドのページが出てこなかったからです。「つばさ」のページを開かないと分からないのでは誰も気づかないと思ったからです。

(構成員)

・いずれにしても、これからバージョンアップしていくのですよね？
・伊野構成員の言われたことも重要だと思いますので可能な限り検討下さい。まだ、スタートしたばかりですが、今後は情報を増やしていく予定ですか？

(構成員)

・こんな情報を掲載してほしいという意見がありましたら必要に応じて検討して参ります。

(事務局)

・支援機関ガイドは、予算のない中、「つばさ」の職員が一生懸命、手作りしてくれました。市としても予算が潤沢にあるわけではないのですが、地図上に支援機関の場所を示すことができるGIS(地理情報システム)の作成を進めております。例えば、支援機関の対象年齢で表示を色分けしたり、支援機関名をクリックしたら、支援機関の説明が出て、そのホームページに移動できたり、家の近くの支援機関を探ることができたり、GISのリンクを「つばさ」のホームページに貼ったりすることで支援機関ガイドをブラッシュアップしたいと考えています。

(構成員)

- ・親の会の立場ではないのですが、勤務先に「支援機関ガイドが出来ました」というメールが届きましたので、初任者の養護教諭のところに行って、使い方を早速説明しました。他にも大事なことはあると思いますが、ある程度現状が分かっている人が間に入って実働部隊に届いて機能するような仕組みも考えていかなければならないと思います。

(事務局)

- ・本日、「つばさ」の「令和6年度事業実施状況」という資料を配布しております。支援機関ガイドの質問が無ければ、報告いただきたいと思います。

(構成員)

- ・それでは報告をお願いします。

(構成員)

- ・【延支援件数の内訳】令和6年度、「つばさ」に2034件の相談(延件数)があり、うち就労支援の相談は139件ありました。少ないように見えますが、就労のみ(就労と他の相談が同時にあった場合は発達相談支援にカウント)の相談をカウントしています。
- ・【相談人数・支援件数の推移】実人数自体は大きく変わっていないのですが、ここ数年、延相談人数・支援件数が減少しています。これは厚労省のカウント方法が大きく変わったことが影響しています。他の要因として、身近に相談できる訪問看護サービス等を受ける方が増えたことで、定期的に「つばさ」に来所するというよりは必要時のみ相談されるケースや一回限りの相談が増えたことも考えられます。
- ・【「相談支援」における相談方法】来所と電話が多いですが学校や家庭、福祉サービス事業所などにも訪問しています。
- ・【「相談支援」の相談者の内訳】相談者は家族、本人の順に多くなっています。医療機関からの相談が14件で、アセスメントの依頼が時々あります。
- ・【対象者の年齢層】19歳から29歳、小学生の順に多くなっています。電話での相談の場合、年齢を言わない方がいますので不明も多いです。
- ・【障害種別】診断がついていない、診断を受ける一歩手前の方からの相談が一番多く、自分は発達障害なのではないだろうか？専門機関に相談した方がいいのではないかなどなどの相談が多いです。続いて、知的障害を伴う自閉スペクトラム症や注意欠陥多動性障害の診断がある方が多いです。
- ・【発達障害の有無】相談支援・発達支援(49.5%)が診断のある方、相談支援・発達支援(41.0%)が不明の方で、その他は他の精神科疾患の診断がある方となっています。横の棒グラフは障害種別の内訳を示しております。
- ・【連携先の機関】相談支援事業所、小学校、医療機関の順に多いです。続いて障害児通所支援事業所(放課後デイサービスを含む)と特別支援学校との連携は同じ件数です。

- ・【個別支援のための調整会議】前年度より少し減っている状況です。
- ・【機関コンサルテーション】相談したいお子さんや利用者がいるので来てもらえないか？といった場合など、「つばさ」が訪問支援をした件数になります。令和5年度は22件でしたが、令和6年度は64件と大きく増えました。相談件数が減ってきた分、後方支援に力を入れています。
- ・【普及啓発及び研修】「つばさ」が外部から講師の派遣依頼を受けた件数は、令和5年度が20件でしたが、令和6年度は30件と少し増えています。

(構成員)

- ・機関コンサルテーションについて令和5年度から約3倍増えたと報告がありましたが、これはこういった流れでどういう方がコンサルテーションしているのですか？

(構成員)

- ・ホームページにある申し込み用紙でメールやFAXで申し込みをする機関もありますし、電話で相談内容を聞いて訪問している場合もあります。

(構成員)

- ・保育園や幼稚園など幼児関連の機関に対しても多くコンサルテーションしているなど思ったのですが、療育センターとの住み分けはあるのでしょうか？

(構成員)

- ・療育センターの場合はご家族の了承が必要だと思いますが、「つばさ」の場合は、障害に否定的なご家族に対して保育園や幼稚園が(支援機関を)利用を促す事が難しいケースについて相談があっているのではないかと思います。

(構成員)

- ・相談支援や発達支援というのは分かるのですが、就労支援について「つばさ」はどのような支援を行っているのでしょうか？

(構成員)

- ・就労の希望がある方に対し、しごとサポートセンターや障害者職業センター、就労系の事業所の紹介や同行するなどの支援を行っています。あと、クローズで仕事をされている方の相談を来所やメールで受けることが結構多いです。

(構成員)

- ・クローズで仕事をされている方は、やはり「つばさ」に相談することが多いのかなと思いました。しごとサポートセンターは就労支援について具体的に動きます。発達障害について本人の理解を深めるために、こちらから「つばさ」に相談して、意見をもらうこともあります。

(構成員)

- ・「つばさ」には、どんな相談が多いですか？

(構成員)

- ・お子さんの行動をどのように捉えたらよいか？発達の段階・特性について悩んで

いる所属機関が多いようで、アセスメントも含めて、「つばさ」の見立てや助言がほしいという相談が多いです。

(構成員)

・発達障害の疑いがあるということで来られた場合、確定する場合としない場合があると思いますが、いかがでしょうか？

(構成員)

・保護者が了承の上で入っているケースに関しては、診断がある方が多いと思いますが、機関からの依頼の場合は、今は診断を受けにくい方が多いので、「つばさ」としては診断名に捕らわれず、お子さんの状態を整理するということで関わっています。

(構成員)

・機関コンサルテーションのスライドに「対応方法の助言指導」「心理査定」とありますが、コンサルテーションで「心理査定」と記載されている意図がありますか？

(構成員)

・訪問支援で心理査定をしている件数で、確か厚生労働省に提出する報告書にこの項目があります。自閉症の人のアセスメントで全ての検査をしているかというのと、そうではなく必要と判断した検査のみを実施したものも件数に含まれています。

(オブザーバー)

・補足ですが、事業者からの依頼で心理査定というか検査をすることもあります、民間の病院からの依頼で、診断する前に「つばさ」が状態整理のための検査をした件数もここに含まれていると思います。

(構成員)

・事業所からの心理査定の依頼についても、保護者の了解がないと一歩踏み出せないのかなと思います。コンサルテーションの中で心理査定を行うべきことなのかなと少し思いました。

(構成員)

・あえて確認ですが、今もアスペルガーという言葉は使うのですか？

(構成員)

・今はアスペルガーの診断がついたという話は、あまり聞かないですが、ずっと前に診断を受けている方は、「自分はアスペルガーだ」と言われます。また厚生労働省の報告書の中にもアスペルガーの項目があるのであえて残しています。

(2)発達障害児者支援に関する支援者の交流機関の確保

障害児支援多職種交流会について

(事務局)

・13 ページです。地域生活関係者交流会は、研修や勉強会などを開催したい団体が、自立支援協議会の事務局に申請をして、事務局が障害福祉に資すると判断す

れば、研修の会場費が減免されるなどの処置を受けることができるものです。障害児支援多職種交流会もその1つに位置づけられます。

- ・第1回目は5月30日に開催され、91名の方が参加しました。市の職員も参加して主要事業の説明をさせていただきました。障害児通所支援事業所、相談支援事業所の順で参加者が多くなっています。
- ・2・3は合同分科会として6月16日、7月15日に開催され、いずれも保育所等への訪問支援をテーマに勉強会が開催されました。

(構成員)

- ・それでは、今本構成員からお願いします。

(構成員)

- ・まずは、行政から全体の枠を説明していただいた方がよいと思いますが？

(事務局)

- ・15ページです。今本構成員が講師をされている「ポジティブ行動支援・北九州」も地域生活関係者交流会の1つで6回までのシリーズとなっており、基幹相談支援センターが事務局をしています

(構成員)

- ・この後に強度行動障害の話もあるので、研修を乱立させているというふうに思われると困るのですが、この研修は意図があって開催しています。
- ・本日配布したピラミッドの図をご覧ください。これはポジティブ行動支援の3層モデルを参考に作ったもので、強度行動障害のリスクのある方を3層に分けて分析するものです。強度行動障害で非常に重篤な状況になっている方が第3層で概数ですが20人前後とされており、これは、基幹相談支援センターや「つばさ」に相談に来られた方から算出した数字なのではつきとは分かりません。
- ・第2層は強度行動障害ですが、それほど重篤ではなく各事業所や在宅で生活されている方と思って下さい。
- ・第1層は強度行動障害ではないですが、問題行動があって学校や支援事業所が困っているタイプの方です。
- ・本来、0層はないのですが、新たに作りしました。こちらはすべての知的障害の方になります。
- ・それぞれの層の概数を考えてみたのですが、0層が約2万人、第1層が約5,000人、第2層が約200数十人となります。令和3年度の調査では第2層が5,600人いたと思うので、人数は変わっていますが、現在はこのような構成かなと思います。
- ・ポジティブ行動支援の考え方は、なるべく第3層に行かないように予防的対応をしましょうという考え方です。ということは、第1層で支援者が対応法などを身に付けておけば第2・3層に移行せず重篤化することを予防できると考えられます。
- ・先ほど「つばさ」から対応方法についての相談が多いと報告がありましたが、裏を

返す対応法をご存じない事業所が大多数であると予想されます。ポジティブ行動支援北九州は強度行動障害に限らず発達障害をお持ちの方などを支援している第1層の事業所の方の人材育成を目的に企画されたものです。

- ・市内の小規模事業所の方が音頭を取って今年からスタートしました。1～6回は講義形式で基本的な支援方法や対応の仕方について一緒に学びますが、9月と1月は事例検討会を開催し、実際困っている事例などについて一緒に考えます。

(構成員)

- ・質問やご意見はありませんか？

(構成員)

- ・医師会の役割は第3層の対応です。それぞれの職種の方がどの層を対応しているか、どんな問題を抱えているか図のおかげで非常に分かりやすかったです。

(構成員)

- ・あえて聞きますが、1層の行動問題と行動障害は別物ですか？

(構成員)

- ・別物ではないのですが、重篤度で判断しています。強度行動障害には基準がしっかりとありますが、それに該当しない方の対応にも日々困っている支援者がいるので、それを改善することが研修の目的です。また、もう1つは交流会と名前がついているように、市内の事業所の横の繋がりや一体感を得ることも目的としています。

(構成員)

- ・今のご時世、行動問題と行動障害のどちらを付けた方がよいのか、その辺りの整理があってもよいのかなと思った次第で。

(構成員)

- ・行動問題とは、そもそも誰にとって問題なのかという話ですが、これは支援している人や保護者の方が困っているという意味での問題ですよ。ご本人は自分の今置かれている境遇は、満足ではないですよということの表明だと思います。そういった意味では本人にとって行動問題という言葉は非常に親愛な名称であると思いますが、私たちはそうではなくてポジティブに支援していきましょうねという意味でポジティブ行動支援という名称を付けております。

(構成員)

- ・そうであれば第1層は行動問題とは使わないほうがよいのではないのでしょうか？

(構成員)

- ・使わない方がよいですね。別の言い方にした方がよいと改めて思います。

(3)強度行動障害支援

令和7年度中核的人材養成研修について

強度行動障害がある人への支援者養成研修会について

アウトリーチ支援の試行結果について

(事務局)

- ・17ページです。強度行動障害の児者の受入れ体制の強化を図るために、障害福祉サービスの事業所をチームで支援をしていくために適切にケアマネジメントを行い、その支援の中心的な役割を担っていただく人材を中核的人材といい、その人材を養成する研修を国立重度知的障害者総合施設のぞみの園が実施しています。
- ・令和6年度までは都道府県単位で研修の受講者を推薦しておりましたが、令和7年度からは政令市からも中核的人材研修の受講者を2名、サブ・トレーナー研修の受講者を1名推薦することが可能となりました。
- ・令和7年度の中核的人材養成研修の受講者の選定過程についてです。受講者の推薦依頼が3月末に届き、推薦書提出期限が5月のGW明けと非常に厳しいスケジュールでしたので、まずは地域生活支援拠点の事業所から推薦したらどうかと考え、事業所を回りましたが、推薦要件を満たす事業所がありませんでした。
- ・次に、公的役割を持つ福祉事業団にお願いしたところ、要件を満たす事業所が1つありました。さらに、他の事業所も回り、手をつなぐ育成会に要件を満たす事業所が1つありました。実は育成会は昨年度、福岡県から打診されていましたが、体制の問題で受けられなかったようです。
- ・サブ・トレーナーについては、日ごろから保健福祉・医療・労働など色々な機関と連携・ネットワークを構築し、総合的な支援をしている「つばさ」にお願いしました。
- ・今年度は、福祉事業団(ひよりの丘)から1名、手をつなぐ育成会(インクルとばた)から1名、「つばさ」から1名推薦させていただき、先日、第1回目の研修が始まったところです。この研修はほぼオンラインでの研修となっており、西日本ブロックの受講者は1回だけ岡山に集合します。
- ・令和7年度はタイトなスケジュールで推薦者を選定したということもあるため、令和8年度以降は「つばさ」が実施する「強度行動障害フォローアップ研修」を全て受講し修了した者から決定したいと考えています。なお、令和7年度の決定過程及び令和8年度の推薦要件については、市内の事業所に通知をしております。

(構成員)

- ・研修を受講している金光構成員から感想をお願いします。

(構成員)

- ・私はサブ・トレーナーとして研修に参加していますが、非常に系統立ててというかシステムチックに内容が練られていて、ついていくのが非常に大変ですが、実際に市の中で中核的人材としてやっていくのであれば、これ位の内容は必要なのかなと思います。あとは、講師陣が非常にすばらしく、有意義な研修だと思います。

(構成員)

- ・強度行動障害支援、それから強度行動障害がある人への支援者養成研修会につ

いて、事務局の方から説明をお願いします。

(事務局)

- ・19ページです。令和6年9月から10月に障害福祉サービスの事業所宛にアンケートを行ったところ、強度行動障害に関する研修を希望した事業所が8割を超えていたことから、市独自の研修を開催するものです。この研修は、のぞみの園が実施する中核的人材養成研修の推薦要件として開催します。

(構成員)

- ・現在、受講生を募集中で、研修の内容は資料のとおりです。初回については、厚労省の山根調整官、福岡県発達障害者支援センター理事長の野口先生に「強度行動障害がある人を地域で支える体制づくり」をテーマに講演いただきます。初回のみは所属機関の長やサービス管理者の方も参加していただくことが必須となっています。
- ・12月5日はモデルケースによる事例検討、その後は事例検討から学んだことを所属機関で実際に取り組んでいただき、3月10日は発表事例について、事例検討をする予定です。

(構成員)

- ・続いて、アウトリーチ支援の試行結果について報告をお願いします。

(構成員)

- ・23ページです。先ほどのポジティブ行動支援研究会とどのような関係があるのか混乱もあると思うのでピラミッドの図も併せてご覧ください。行動支援研究会は第1層の支援者をバックアップする目的で、中核的人材養成研修は第2・3層の支援者を養成する研修になるかと思います。
- ・アウトリーチ支援は2から主に3層の強度行動障害の方で少し状態を悪い方のところに訪問して支援していきます。このような活動が後に中核的人材や広域的人材に繋がっていくものと考えています。
- ・アウトリーチ試行は昨年度に実施したもので3月に開催された協議会でも説明しましたが、新しい構成員もおりますので改めて説明します。
- ・アウトリーチ試行の目的は、強度行動障害のある方が利用している福祉サービス事業所へ専門家チームによるコンサルテーションを実施し強度行動障害のある方への支援方法や具体的な対応について事業所職員が学び現場に取り入れることです。また、毎年継続することによって、市内の福祉サービス事業所職員のレベルアップを図り、強度行動障害のある人を受入れることができる福祉サービス事業所を増やし、市全体の強度行動障害のある人への整備体制の構築を図ることです。
- ・実施方法について、令和6年度は1事業所、4回訪問しました。対象機関は市内で強度行動障害がある人が利用している放課後等デイサービスです。ABC研究所の私と相談支援事業所の酒井氏、「つばさ」の黒木氏で専門家チームを作りコン

サルテーションを行いました。内容については資料のとおりです。

- ・まとめです。行動記録を基に結果評価の実施については令和7年2月を予定していましたが、事業所の都合により令和7年6月13日に変更して行いました。
- ・対象児が所属する特別支援学校担当者や支援教育コーディネーターのオザワ氏が参加し、学校や放課後デイサービスと情報共有することができたため、実態に合った対応方法を考えるうえで有益でした。
- ・対応方法についてはスタッフ全員に周知していたつもりであっても、できていないことがありましたが、支援方法を可視化することで統一した支援を実施するのに役立ったそうです。
- ・今まで行ってきた対応もあったが、整理し提示することで、改めて共通理解を図れたそうです。
- ・それまでやってきた対応もあったが「本当にこれでよいのか」不安があった。今回のコンサルテーションを通じて自分たちがやってきたことは間違いがなかったという自信に繋がったそうです。
- ・令和7年度は、行動分析記録の記入方法の説明や、事業所スタッフがレベルアップするためのコンサルテーションのあり方等等今回の反省を踏まえて継続して実施する予定です。

(構成員)

- ・アウトリーチ支援の実施主体は「つばさ」ですが、ポジティブ行動支援・北九州の担当は自立支援協議会であり、いわば半公的なものに位置付けられている。私は2つとも「つばさ」の事業に位置付けて、公的に保証して実施しないと何のための行動支援と言っているのか分からないと思う。非常に分かりづらい行政組織図になっているので、ポジティブ行動支援・北九州も「つばさ」の事業として取り込めないのか？

(構成員)

- ・事務局いかがでしょうか？

(事務局)

- ・ポジティブ行動支援・北九州は自立支援協議会に位置付けているというよりは、自立支援協議会の事務局がこの地域生活関係者交流会という自主的な勉強会をしたいと希望した団体に対して、会場の支援などを行っており、行政主導ではなく、民間の皆さんから勉強したいと声が上がった勉強会・研修を行うという位置付けになっています。「つばさ」は北九州市の委託事業者なので＝市と見えるので、そこに違いがあるのではないかと思います。

(事務局)

- ・少し分かりにくい部分もあると思いますが、自立支援協議会も精神保健・地域移行推進課の事業調整係が担当しています。確かに事務局が違いますが、「つばさ」はきちんと入っています。構成員の言われるよう1つの組織の中で実施した方が

分かりやすい部分もあると思いますし、活きる部分もあると思いますので、情報の共有や仕組み作りについて十分に考えていきたいと考えています。

(構成員)

・ぜひ、お願いしたい。自立支援協議会には妻が関わっているが、いつも議論になる。

(事務局)

・情報提供はきちんとやらなければならないと考えています。おそらく、構成員の方もそうだと思いますが、施設の方たちも自立支援協議会への参加の仕方について非常に迷う可能性があると思います。全てを「つばさ」だけで実施するのは、スタッフなどでなかなか厳しい面がありますので、市としても情報提供のやり方や体系をどういう形にするかについて、今後の宿題にさせていただきたいと思っています。

(構成員)

・少し補足させてください。全て「つばさ」でできることが一番望ましいとは思いますが、人的資源や予算など現実的には難しい面があります。ただ、「つばさ」のスタッフはどちらの事業にも関わっておりますし、全部一貫性のある支援として、行われるように仕組みを作っていますので、違う組織で事業を行うことでの混乱はないのかなと思います。

(構成員)

・それは自分たちが混乱していないだけであって周りは混乱しています。何か問題があった時、役所のどこに言えばいいのか分からないし、自立支援協議会の動きが周りから見えない。もっとクリアにする必要があります。実質、同じことをしているではなくて、きちんと行動支援をするのであれば、きちんとした組織図を作り上げるべきです。そうしないと意味がないし、あっちでもこっちでもやっているでは、はたから見ても分からない。

(構成員)

・そうですね。全部統一できればよいのですが。私は一人の専門家・この協議会の構成員として強度行動障害の問題を協議会の中で取り上げ、重点的に審議していただいて非常にありがたいと思っています。私はすぐにできないことをどこに頼めばいいか、どこを使って動いていけばいいのか考えて行動していますが、一元的に取り組むのはこれから先の課題にはなるかと思いますので、現時点でできることを精一杯頑張りたいと思います。

(構成員)

・端的に言わせてもらおうと、ポジティブ行動支援・北九州をきちんと位置付けないといけない。そして、位置づけるとしたら、「つばさ」に位置付けるのが一番収まりがよい。なぜ、自立支援協議会の地域生活関係者交流会なのかと妻と相当議論になる。

・事業所が集まって事例検討するのは、悪くないと思いますが、ポジティブ行動支援・北九州にもっと重みを持たせる必要があるのではないのでしょうか。「つばさ」が実施しているアウトリーチ支援の下の位に位置づければ、アウトリーチ支援では第2～3層の支援者への支援、ポジティブ行動支援・北九州では第1層の支援者への支援を「つばさ」が行っていると分かりやすく説明できるし聞く方も分かりやすい。

・予算の問題というが、ポジティブ支援・北九州には今予算付いてないでしょ。

(構成員)

・はい。付いていません。

(構成員)

・はっきり言うと市がお金を出したくないために、ここに位置付けているのではないかと私は穿った見方をしてしまう。やるならきちんとやった方がよい。

(事務局)

・ポジティブ行動支援・北九州は自立支援協議会の交流会の中でやっていこうと協議会の中心人物が協議のうえ決定したので、この位置付けになっています。先ほどポジティブ行動支援・北九州を中心に色々やっていけばよいのではないかとご意見をいただいたので、自立支援協議会での位置づけや「つばさ」との事業との関連性などを整理し、関係者の意見を十分に伺ったうえでどういう体系がよいのか検討して参りたいと思います。

・確かにポジティブ行動支援・北九州には市の予算は入っておりませんが、自立支援協議会そのものは市が立ち上げた事業なので、予算は入っています。ポジティブ行動支援・北九州市もその一環の事業ですので、自立支援協議会で実施している事業は市の事業と同じであると位置づけております。ポジティブ行動支援・北九州とアウトリーチ支援は同じ係で行っている事業ですので、そういった事も含めて整理させていただきたいと思います。

(構成員)

・今まで曖昧にしてきたので、そもそも北九州市は発達障害にどう対応していくのか、きちんと整理しておくのも必要かなと少し思いました。研修に話を戻しますがその他意見はありませんか？

(構成員)

・研修会は支援者でなければ受講できないのでしょうか？ そうだと人数的にはどうなのでしょう？

(オブザーバー)

・先ほどお伝えしたように、のぞみの園の中核的人材養成研修の推薦要件となっていますので、事業所のスタッフを対象とした研修となっています。募集人数はMAX36人となっておりますが、当初からそんなに応募はないだろうと予想していて、現在は16人の応募がっています。

(構成員)

・中核的人材養成研修の推薦枠は2名ですか。先ほど推薦要件に該当する者がいませんでした(17ページ)と説明がありましたが、そんなに難しい要件なのか？

(オブザーバー)

・来年度については、県等が主催している強度行動障害支援者養成研修(基礎・実践研修)を受講していることと、「つばさ」が開催する研修を3日間全て受講した者の中から市と「つばさ」で選考するものなので、そんなに難しいものではないと思います。

(構成員)

・来年度以降も2名なのですか？

(オブザーバー)

・一応その予定です。

(構成員)

・せっくなので中核的人材を増やしていかないと。

(事務局)

・推薦枠ですが、政令市は2名という割り振りがありまして、おそらく来年度以降も2名なのではないかと思っています。市としては、自分の施設だけではなくて、北九州市の発達障害、強度行動障害の方々の支援に積極的に関わってくれる人材を選びたいと考えています。もしそういう方をご存じであれば、ぜひ、「つばさ」の研修を受講してくださいと強く言って下さい。

(構成員)

・精神科の病院で働いていますので、我々は3層の方を対応しています。強度行動障害の方が悪くなって病院に来られても、病院のできることは本当に限られています。病院で対応することが一番よい方法なのか、悪くなった時にどうすべきなのか行政には真剣に考えていただきたいです。

(オブザーバー)

・10月15日に開催する、厚労省と野口先生の講演会については、どなたでも参加できます。野口先生は大野城すばる園で先駆的なことを色々とされた方ですので、親の会の方もぜひご参加ください。

(事務局)

・次回のご案内ですが、3月頃の開催を予定しております。改めて、日程調整させていただきますので、その際はよろしくお願いいたします。以上をもちまして、令和7年度第1回北九州市発達障害者支援地域協議会を閉会いたします。皆様ありがとうございました。